

日本の国からまた一人、牛飼いがいなくなります。「つづげだらいがっぺよ」なんて話してただけど…。仲間の思いを紹介します。



デントコーンの収穫をする雄姿も、もう見られない。(2001年撮影)

牛飼いをやめる思い

十王町の根本陽一さんの
ホームページから転載

思えば約30年前、それまでつとめていた農協を辞め、1年かけて、鉄骨を溶接し牛舎を建て、高校の頃から思っていた牛飼いを始めた。自宅からは少し離れた約1畝の山林である。

乳牛5頭から飼いはじめ、牧草づくりや朝晩の搾乳をした。その後、町会議員に当選し、搾乳がたいへんになり繁殖和牛に切り替えていった。

繁殖和牛は、朝晩の給餌だけであるが、子牛を産ませるために、人工授精をする時期を見つけるのが1つの仕事でもある。多いときはこの母牛を10頭

飼っていた。

いま、牛飼いをやめるに至ったのは、次の主に3つの理由である。

1) 機械力が追いつかない。

デントコーンの播種機、サイレージのコーンハーベスタ、藁の収束機など粗飼料づくりの機械が大型になり、他に頼らざるを得なくなった。

2) 受精時期を見つけるのが遅れ、繁殖率が悪い。

牛の場合、21日周期で受精時期が来るが、朝晩の見回りだけでは、その時期を見つけにくい。効率の良い繁殖は1年

1産であるが、約1年半から2年の繁殖率になってしまった。

3) 11月から日立市議会議員として活動することになり、上記のことが今まで以上におそろかになると考えた。

幸い、畜産農家の友人の子が「繁殖をやりたい」とのことで、私の手作りの牛舎を利用することになり、貸すことにした。その子の畜産への思いも、かなえたいと思った。

※ 牛飼いはやめても、米作りには今まで以上に精を出すつもりである。

根本さんのHPのアドレスは
<http://www8.ocn.ne.jp/~roman41/>

農民連が市町村議会に2つの請願

各市町村の9月議会に向けて、農民連では「政府米の買入れと備蓄を充実させる意見書提出を求める請願」と「アメリカ産牛肉の輸入解禁に反対する意見書提出を求める請願」の2つの請願を提出しました。紙面のつごうで、今週は米に関わる請願のほうを紹介します。

政府米の買入れと、備蓄を充実させる意見書提出を求める請願

【請願理由】

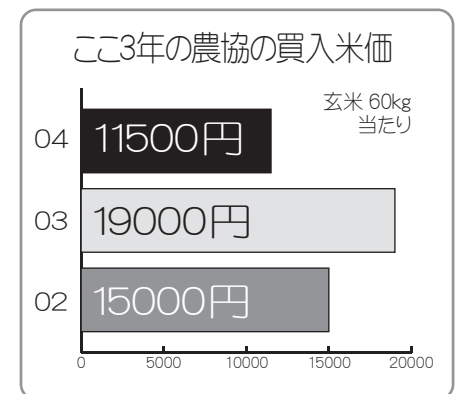
昨年秋以来、一部の大手業者による買占めに始まった米価格の一時的暴騰は、一転して大暴落し、底無しの様相となっています。この要因は、米不足が明らかになった昨年の九月以降、政府が不足分を大幅に上回る105万トンの備蓄米を放出し続けていることです。

政府米を買い入れず、必要以上に古米を放出し続けていることが、市場に米をあふれさせ、深刻な米価暴落を引き起こし

ているのです。しかも放出している米は超古米で、今は平成九年産が主力です。これが、消費者の米離れを加速させ、卸、小売も在庫が計画通り減らないという深刻な悪循環に陥っています。

産地は、価格暴落におののき、流通業者は米が動かないと嘆き、経営への打撃は深刻です。

今年は、「米改革」の初年度ですが、こうした状況を放置するなら、政府が育成の対象としている「担い手農家」も、担い手か



らはずれる多数の農家も経営が破綻し、あらゆる改革の土台を突き崩すことは明白です。

【請願事項】

1. 政府は米の需給と価格の安定に責任を果たすこと。また、いまだに放出し続けている政府米の売却を中止し、政府自身が決めた「備蓄計画」に見合う米の買い入れをただちに実施すること